

## 《第 95 号》\*\*\*図書館の防災対策\*\*\*

図書館で災害が起きた際、利用者・職員の安全確保はもちろん、資料や施設を守ることも大切です。東日本大震災以降、防災マニュアルの作成や館内の避難訓練、設備などの安全対策を行っていますが、今回はその中でも特に地震対策についてお伝えします。

### 【人(利用者・職員・自分自身)を守るために】

安全を確保するために職員一人ひとりが防災マニュアルを理解し、実際に地震が発生した際にどのような行動をとるべきかをイメージしながら、避難訓練をしています。

#### ◇備えている物

ヘルメットや懐中電灯、ラジオ、防寒具を備えています。

#### ◇安全な場所の指示

地震発生時は、「机の下に入って！」「本棚から離れて！」など利用者に分かりやすい言葉で声をかけます。蛍光灯の破片や窓のガラス片の散乱、資料の落下、最悪の場合、書架が倒壊する恐れがあるので、すぐに書架から離れて安全な場所に避難することを優先します。

#### ◇安全な場所への誘導

外に出るタイミングは地震の状況や立地によって異なるので、平常時に周囲の安全性を確認しておくことが大切です。揺れが収まったら、利用者を避難場所へ誘導しつつ、ケガ人や館内に取り残された人がいないか確認します。

### 【施設を守るために】

書架や備品の倒壊を防ぐための対策をとっています。

#### ◇傾斜スライド棚

書架の上段を傾斜スライド棚にしています。地震の揺れで棚板が自動的に傾斜し、震度 5 程度まで資料の落下を軽減します。資料のダメージを防止するだけでなく、落下した資料によるケガの予防や、避難経路の確保にもつながります。

#### ◇落下防止(滑り止め)テープ

滑り止め加工されたテープを棚板に貼り、資料の滑落を減らしています。

#### ◇上部転倒防止つなぎ

書架同士を支柱で連結し、ひとつのブロックとして補強されることで不規則な地震の揺れから書架の転倒(将棋倒し)・横ずれを防ぎます。

### 【資料を守るために】

資料の復旧は、人の避難が完了し全ての安全を確認してから行います。

#### ◇落下資料の整理

揺れの向きや大きさによっても落下の規模はさまざまです。落下や下敷きになった資料が、それ以上痛んだり変形したりしないように安全な場所に仮置きします。

#### ◇資料の修復

本の中に入ったゴミ・ガラス片・割れた蛍光管の破片等を除去します。早急な対応が必要な水損以外の修復については、被害状況をみて順次対応していきます。

【参考文献】みんなで考える図書館の地震対策編集チーム編，みんなで考える図書館の地震対策：減災へつなぐ，日本医学図書館，2012年(事務用 013/Mi44)

\*\*\*図書館トリビア\*\*\*

2011年3月11日14時46分、矢巾図書館がある矢巾町は震度6弱の地震に見舞われました。人的被害はありませんでしたが、本震・余震あわせて約64,000冊の図書・雑誌が落下したほか壁や書架、ロッカーなど破損がありました。

被災状況は本学ホームページで公開しています。

(<https://www.iwate-med.ac.jp/infomation/shinsai/hisai.html>)

日本は、世界で4番目に地震が多い国だそうです。図書館で地震が発生した場合は、閲覧テーブルやカウンターの下などに避難することが安全といわれています。地震が起きた時にどう行動して何をすればよいのか、日頃から考えていくことをお勧めします。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 [tosho@j.iwate-med.ac.jp](mailto:tosho@j.iwate-med.ac.jp) まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館